



もうすぐ研究室設立 50 周年

鹿兒島大学の児玉谷仁先生からバトンを頂きました。島根大学の管原庄吾です。私は、学生の時にご指導いただいた奥村稔先生、清家泰先生、藤永薫先生の研究室を引き継ぎ、現在は助手の江川美千子先生と一緒に環境分析化学研究室を運営しております。児玉谷先生とのメールのやりとりの際に知ったのですが、児玉谷先生は、奥村稔先生や藤永薫先生をご存じのようで、同じ環境分析系でバトンを…ということで私にお声掛け頂いたようです。児玉谷先生、ありがとうございます。

さて、私が所属する環境分析化学研究室は、2028年に設立50周年を迎えます。このことを知った経緯を順に書いていこうと思います。まず、2022年に行われた中国四国支部分析化学若手セミナーで、徳島大学のある研究室の学生さんが、研究室紹介の一環で研究室史をご紹介します。その研究室史には、研究室設立からこれまでの歴史、イベント（受賞等）、当時の先生の情報などが纏められていて、大変すばらしいものでした。私も研究室史を作りたいと思い、すぐに研究室の歴史を調べることにしました。まずは、手っ取り早くインターネットで調べてみると、「島根大学総合理工学部環境分析化学研究室を訪ねて」という記事がヒットしました。この記事は、2009年に発行されたぶんせき誌（「こんにちは」のコーナー）に掲載された記事で、2009年6月2日に塚原聡先生（現大阪大学教授）が松江にお越しになり、研究室の取材をして頂いたようです。記事によると、改組により昭和53年（1978年）に理学部が設置され、この理学部の発足と同時に研究室が設立されたとの記載がありました。すぐに奥村稔先生にご連絡をしたところ、あれ？1974年では？？ん？1979年？？あれ？？となり…。それからお会いする度に設立時期のお話をして、1年ぐらいの時間をかけてようやく1978年で間違いのないとなりました。50周年は節目となる大事な年ですので、記念パーティーを企画中です。開催時期は2028年の分析化学討論会の前後かなと思っています。島根は少し特殊（？）で、11月（旧暦の10月）

には全国の八百万（やおよろず＝無限に多いという例え）の神々が出雲の国に集まり、島根ではこの時期を神在月（かみありづき）と呼んでいます。この時期は、気候的にも最高の時期なのですが、神様のみならず出雲大社に参拝される観光客も多く、宿泊費が一泊1～3万円くらいまで跳ね上がります。となると、開催時期は5月から6月となり（これを執筆しているのが2025年10月下旬なので）、設立50周年まで実質2年半ぐらいしかありません。卒業生と一緒に、盛大にお祝いをしたいと思います。

途中、ぶんせき誌の「こんにちは」のコーナーの話をしましたが、皆様はご覧になられたことはありますか？個人会員向けの「ぶんせき誌」冊子体の発送は2022年3月より停止となり、現在は電子版のみとなっています。こちらからアクセスして見に行く必要があります。学会HPには、2001年以降の記事がアーカイブとして残っていて、会員マイページからみることができます。「〇〇研究室を訪ねて」という記事は、2001年以降ほぼ毎年掲載されていますので、もしかすると皆様のご出身の研究室のことが掲載されているかもしれません。是非探してみたいはいかがでしょうか？このような企画（研究室を訪問して取材する）は、大変ユニークで、その記録は貴重だと思います。おかげさまで研究室の歴史を調べる上でかなり役に立ちました。当時、当研究室の取材をして頂いた塚原聡先生、そしてぶんせき誌の編集委員の皆様には心より感謝申し上げます。

次は、東京大学大学院工学系研究科の佐藤宗太先生に引き継ぎました。佐藤先生には、第85回分析化学討論会（愛媛）の若手ポスターの審査において、大変お世話になりました。また、懇親会でも大変有意義で楽しい時間を過ごすことができました。この場を借りてお礼申し上げます。佐藤先生、どうぞよろしく願いいたします。

〔島根大学 管原 庄吾〕